



地域の人々へ～緊急子ども給食

江東小隊 (教会にあたる) 小隊長 ジェネシス・アプワン

新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、2020年3月2日から全国の学校が一斉休校となりました。江東小隊では、子どもたちの給食がなくなることによる栄養不足の心配と昼食を用意する保護者の負担を軽減したい、と3月中に「子ども給食」を4回おこないました。毎回50食準備し、玄関前で提供しました。

この活動に、普段江東小隊の英語教室に来ている学生

や日曜学校の生徒が、ボランティアとして参加してくれました。回を重ねるごとに周知されていき、最終日には用意した50食があつという間になりました。

聖書には、イエス様が、飢えている人、のどが渇いている人等、困っている人々を助けることは、イエス様を助けていることになる、という記事があります(マタイによる福音書25章31～40節)。この活動は食事だけでなく神様の愛をお届けするものです。出会いの中で蒔かれた神様の愛の種が、やがてその方々の中で生長し、それぞれの人生に豊かな実が実るようお祈りしています。

(その後、5月～6月初めに、同じ場所で救世軍東京東海道連隊主催による「子ども給食」が10回おこなわれました。)

施設周辺への新しい取り組み

救世軍自省館 施設長 伊吹正典

近年、社会福祉法人並びに社会福祉施設は、地域福祉への貢献、地域での公益的事業の実施ということを求められています。

当施設では、アルコール依存症やそれにかかわる問題の無料相談の実施、専門医による講義と自助グループメンバーの体験談を組み合わせた市民講座の開催等、施設としてこれまでに培った経験や関係機関との人脈等を生かし、地域に対する活動を実施しています。

2019年度は、さらにその活動を広げるため、「生活困窮者等居住支援事業」を本格的に実施することとしました。これまでも、利用者の生活訓練用に救世軍恵泉ホーム2階の職員宿舎の一室を借り上げ、利用者の訓練使用がない時に地域で居所にお困りの方の支援に提供していました。

新しい事業は、社会福祉法人 中央共同募金会による「赤い羽根福祉基金 救護施設等のセーフティネット機能強化助成事業」の助成を受け、職員宿舎の一室をさらに借り上げて、実施することとなりました。これまでの訓練用の居室は、1DK(風呂なし、トイレ付)でしたが、

今回は、2DK(風呂・トイレ付)の居室となります。

2019年度は約330万円の助成を受け、居室等の整備と事業開始の周知、事業の開始として次のようなことに取り組みました。

- ①救世軍恵泉ホーム2階にある職員宿舎の借り上げ
- ②借り上げた居室内の内装整備(キッチンの改修、壁紙交換、照明器具交換、インターホンの設置、畳替え等々)
- ③生活に必要な器具備品、家電製品、寝具等々の整備
- ④事業に関するパンフレット作製
- ⑤清瀬市社会福祉法人社会貢献事業協議会での広報
- ⑥清瀬市健康福祉部生活福祉課との情報共有
- ⑦きよせ生活相談支援センター「いっぽ」との情報共有

助成金の支給決定を受けてからの事業開始でしたので、居室の貸借契約が8月1日となり、そこから内装等の改修工事や器具備品等々の購入整備を実施しました。実際に居住可能となったのは11月に入ってからでしたので、関係機関等々への広報や情報共有は11月下旬から12月にかけての実施となりました。

残念ながら2019年度内での実際の利用はありませんでしたが、2019年度末には利用申し込みがあり、2020年度当初の利用が見込まれました。

今後も地域福祉に貢献できるよう、居室活用に取り組んでまいります。



歳末助け合い募金 社会鍋

2019年12月に全国でおこなわれた社会鍋に、多くの方々にご協力いただき、感謝申し上げます。

社会鍋に託された資金は、各地の救世軍を通して地域のニーズを聞き、様々な支援に役立てられています。社会福祉活動をしている全国各地の団体への支援や、街頭生活者支援などに用いられております(写真上 横浜小隊〈教会にあたる〉での冬期の給食支援)。

全国の募金結果は、12,648,645円でした。

2019年10月には、台風被害の復旧支援のために、臨時社会鍋が各地で立てられました(写真は、北海道・遠軽)臨時社会鍋に加え、インターネットによる献金など、計約145万円のご支援をいただきました

東京地区では、救世軍の信徒、施設職員や多くのボランティアの協力によって街頭生活者へ手づくりの食事を届ける「街頭給食」が毎週3回(12～3月)おこなわれました。

4～11月は、月に1回街頭生活者へ食品と日用品を提供しています。	〈東京地区〉 日用品配布(受益者) 1,202人 街頭給食(受益者) 3,527人 ボランティア 584人
	2019年4月～2020年3月延べ

エンジェルツリー・プロジェクト

2019年は、東京アメリカンクラブ様、玉の肌石鹸株式会社様、廣瀬不動産株式会社様にご協力くださり、264人の施設などにいる子どもたちにクリスマス・プレゼントを届けました。(写真は、支援者への礼状)



エンジェルツリー・プロジェクトとは…

米国で始まった、子どもたちへクリスマスの喜びを届けるプレゼント・プロジェクト。現在米国では、救世軍のある地域に住む乳児から18歳までの子どもと60歳以上の困難な状況にある方々へプレゼントを提供しています。願いを書いた最初のカードに天使の絵が描かれたことから「エンジェルツリー・プロジェクト」という名前になりました。希望者(もしくは代理人)がタグ・カードに名前(苗字なし)と希望の品やサイズ、年齢性別等を記入します。支援者がそれを見てプレゼントを購入し、救世軍に託します。個人情報(救世軍のみ)で管理しており、一人ひとりの希望に叶うプレゼントを届けています。

救世軍は
あらゆる苦しみの中にある
みなさんと
共にありたいと
願っています

Declare His Glory



佐野市での汚泥撤去作業

水害被災地支援の反響

災害対策室 東北地区担当 藤井千明

栃木県佐野市在住の茂木さんは、ご主人を亡くされた後に経営していたメリヤス工場をやめ、現在は地域の高齢者の集いや、佐野小隊（教会にあたる）での女性の集まりで、手芸講師として活躍しておられます。工場内の工業用マシンや作業スペースを利用して、それらの講習のための材料準備や、工芸品の作製を続けてこられました。そのようななかかわりで出会った茂木さんですが、工場と同じ敷地にある自宅が、昨年の水害で被災しました。救世軍では、10月13日（日）に茂木さん宅などいくつかの被災者宅へ支援品（45ℓゴミ袋、ビニール手袋、軍手、ウェットティッシュ、箱ティッシュ等のセット）をお届けし、翌日の復旧作業の間には、お弁当とお茶をお届けしていました。このたび、茂木さんから近況をうかがいました。

「最初、浸水の被害を受けて、何をどうするとも考えが及ばないでいる時に、一番に来てくださったのが救世軍の人でした。とても嬉しかったです。いただいた品物も、すぐに使う必要な物でも助かりました。翌日は、家族や親戚が10数人集まり、片付けを始めましたが、無我夢中で誰がご飯の支度をするという考えも何もなくいたところ、救世軍が温かいお弁当とお茶を持って来てくださり、本当に助かりました。」



今は、新型コロナウイルスの影響でマスクが不足しているので、布製のマスクをつくっています。ぜひ、昨年佐野の水害のために支援に来てくださった方々に、お礼に差し上げたいと思っています。」



千葉での被災地支援に参加して

救世軍清瀬病院 看護師 田口正文

私は救世軍の救済活動に興味があり、以前に1度だけですが、給食ボランティアをしました。少しでも困っている人たちの力になればと思い、始めたということもありますが、その経験がいずれは被災地で何か役立てられないか、とも考えていたのです。

それから数年後にあたる昨年、近年稀にみる大型台風が関東に上陸し、千葉県全域で、屋根が飛ばされるなどの大きな被害が出ていることを知り、胸を痛めました。

そんな思いの中、職場にて千葉での被災地支援のお誘いがあり、急ではありましたが、日程を調整し、参加させていただきました。

当日早朝、車に乗り込み、被災地へ向かうため、高速道路に乗りましたが、そこから見る光景に愕然としました。車内から見えたのは吹き飛ばされた屋根を仮修繕したばかりのブルーシートだらけで、何十分走っても、その光景は延々と続くのです。そして、支援先の館山に着きました。給食の準備が整い、断続的に降り続く雨の中、配食が始まりました。受け取りに来られた被災地の皆様の顔を見ながら、少しでも心の傷が癒えるように、と願いました。支援活動もあつという間に終わり、帰りの車内からも見え続けるブルーシートの光景は、今でも忘れ



1



2



3

- 夏まつりを応援 2018年の西日本豪雨から1年後の2019年7月、岡山県真備町の復興支援拠点「まびくら」でカレーを提供した …写真1
- 台風15号の被災地支援 9月、被災直後の支援（千葉県・神崎町）…写真2
- 同上 館山市での給食支援 …写真3

救世軍は
災害被災地の
回復の力を
信じ
お支えしたいと
願っています

られません。

振り返り、思い返してみると、私自身が被災地の人たちのために、どこまでできたかはわかりませんが、困っている人のために、できることを、できる範囲でやり続ける、諦めない、この思いが、次の被災地ボランティアに行く原動力となりました。

普通に暮らせることが、どれだけ幸せなことなのか、改めて感じましたし、私も、いつ被災当事者になるかわかりません。困った人のために、できることを、できる範囲でお手伝いしていく。この気持ちを忘れず、日々過ごしていきたいと思ひます。



Declare His Glory